

## 第1回市町村DX担当者会議（データ連携基盤共同利用ビジョン策定関係）

### 議事録

日時	2024年9月25日（水）9:30～11:30	場所	オンライン
----	-------------------------	----	-------

議題	
1	「データ連携基盤共同利用ビジョン策定に係る背景」 和歌山県 デジタル社会推進課 主査 坂野 悠司
2	「地方自治体におけるデータ活用」 武蔵大学 社会学部 メディア社会学科 教授 庄司 昌彦 氏
3	「国内のオープンデータ取組自治体の状況」 和歌山県・市町村 DX 専門プロデューサー 下山 紗代子 氏

質疑応答	
Q. (和歌山市)	ニーズの高い行政データはどのようなものがあるか。
A. (庄司氏)	ユーザーが誰なのかから考える必要がある。行政内部から始めるのも一つの手。興味がないところでやるより、すでに勢いがあるところでやり始めるほうがいい。人に関する情報や場所に関する情報、いわゆる ID が揃えばデータ連携させやすくなる。
Q. (有田市)	
①	公共サービスマッシュについて、行政サービス同士のサービス連携は国の動きを待つ方がいいのか。例えば、健康分野はデータ連携の可能性も高いと思うが、国の連携を待つべきか、市町村が率先して動く方がよいのか。
②	データ連携基盤について、都市 OS をするにあたり、API を公開しないベンダーがいるがどうすればよいか。
③	オープンデータ作成について、自治体によっては1から作らなければならないものもあると思うが、オープンデータを推進する我々の立場へのアドバイスをいただきたい。
④	県として、ビジョンの策定範囲をどこまで考えているか。県と市町村の役割など決まっていれば教えていただきたい。

A. (庄司氏)

- ①公共サービスメッシュはまず標準化が前提。標準化が R7 年度末で終わるのかどうかというところだが、ここまで来たらやめることはないだろう。仕様を決めてしまえばそれに沿って進めていくことになるので、国の動きはよく見ておくべきだし、取り込めることは取り込んでいくべき。総理大臣などが変わるので、国の動きがリフレッシュするが、決まるのを待っているのは時間をもったいない。ただ、国の動きを無視してはズレてしまうので、国の動きを見つつ国をリードする勢いで動いていくのがいいと思う。
- ②API を公開しないベンダーがいるということだが、人手不足な上に忙しくてできないのだと思う。IT 関係はおそらく新しい祭りが始まる気もするので、そういう中でベンダーも基幹システム云々だけじゃ開けていけないので、ベンダーとは粘り強く交渉していく必要がある。

A. (下山氏)

- ①将来的に国のデータ標準がアップデートされる可能性があるとしても、一旦庁内のデータは機械判読性を高めて現時点の標準（GIF）に寄せておいた方が、後々の対応コストを下げるができるはず。話を単純化すると、変換コストは N→1 よりも 1→1 の方が早いという話。
- ③有田市さんのおっしゃる通り、まず取り組むものとしては、公開したらすぐ利用してもらえるような、サービスの目処が立っているデータを選ぶのが良いと思う。  
この会議自体も使いながら、今後市町村の皆さんと同じフォーマットで共同公開するデータを決めて取り組めるとベストだと考えている。  
三重県でも同様の取り組みを進めていた。

<https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0359600008.htm>

A. (和歌山県デジタル社会推進課)

- ④県内や市町村の方々が有田市の基盤を使いたいと県に相談があるかと思うが、そうになったらビジョンに落とし込みながら対応していく予定。

Q. (田辺市)

オープンデータの公開方法について、市町村が民間の方で出すのか、市町村が独自に HP で公開するののだが、県としては、和歌山県の状況が低いことにあって、県でオープンデータのサイトを作る予定はあるのか。

A. (和歌山県データ利活用センター)

今後の展開次第（利用者が増えたら）でそういうものもやっけて行けたらと思う。

Q. (田辺市)

利用者を増やす方向で県も頑張るといふことでいいか。

A. (和歌山県データ利活用センター)

尽力する。

Q. (白浜町)

データ連携基盤は様々あると思うが、今後整理（淘汰）されていく方向性はあるのか。当町はすでに基盤を整備しているが、どの程度対応できるかなど検証していく必要があると感じている。

A. (庄司氏)

これからはおそらく維持が大変ということも出てくる。広域の政策と一体化させていくことが必要。